

【望月ゼミ】3回生、4回生合同チームで京都女子大学と国際法ディベート交流会

執筆者 3回生 平山一暉



A チーム



B チーム

望月ゼミ（19人）は、2021年12月19日（日）に京都女子大学と国際法ディベート交流会をオンラインで行いました。

ディベートのテーマは「パレスチナは国家であるか」と「核軍縮交渉義務違反は、ICJで裁判可能か」の2つです。どちらも現在の国際社会における重要なテーマです。いずれのチームにとっても考えるべきことが多く、難しいテーマでした。

ディベート交流会に向けて、ゼミでは約2ヶ月、毎日のようにグループで議論を行い、ゼミ生一人一人が努力しました。そのおかげでディベートではゼミ生全員が活躍することができました。

ディベート交流会当日は、緊張している人もいましたが、いざ本番になると、自信を持って堂々と意見を述べており、成果を発揮することができました。ディベート中も互いを助け合う姿は、ゼミ生同士の結束力の強さを感じました。

もしかすると悔しさも残ったかもしれませんが、しかしそれは全員が、このディベートのために時間をかけて勉強してきた証拠です。

このディベート交流会のおかげで、望月ゼミ生は二つのものを得ました。

一つ目が国際法の知識です。自分達の立場の優位性を主張するために、過去の判例や条文を読み漁り、多くの知識を得ることができました。

二つ目がゼミ生間の絆です。前期はオンライン中心の授業で仲良くなる機会が少なかったです。しかし今回の交流会の準備を通して、同学年のゼミ生が親密な関係を気づくことができましたし、さらに 3.4 回生の信頼も深まり、かけがえのない友人を得ることができました。

ディベート交流会は大学生活の中での大切な思い出の一つとなるに違いありません。

ディベート交流会が終わった後の記念撮影





みんなの満面の笑みがやりきった証です。

なお、大会中はマスクを常時着用し、記念撮影の際のみマスクを外しました。